

ヒブワクチン

<p>ヒブって何？</p>	<p>ヒブは、ヘモフィルスインフルエンザ菌b群という細菌の略称です。『インフルエンザ』という名前がついているので、毎年流行するインフルエンザウイルスと混同されやすいのですが、全く関係ありません。誤解をさけるためにヒブと呼ぶようになっています。</p> <p>ヒブは子どもの重症な細菌感染である細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎、肺炎などを引き起こします。特に乳幼児の細菌性髄膜炎は早期診断が難しく、診断がついた時点で手遅れの状態であることも稀ではありません。日本では毎年 600 人ほどの子どもがヒブによる髄膜炎にかかり、そのうち5%が死亡、20%以上に てんかんや神経障害などの後遺症が残ります。</p>
<p>ヒブワクチンってどんなワクチン？</p>	<p>ヒブワクチンが普及した国では ヒブによる細菌性髄膜炎などの重症感染症は ほとんどなくなっています。欧米では 1990 年代にヒブワクチンが導入され、現在 110 カ国で使用されています。ヒブワクチンはフランスからの輸入品でフランス産・アメリカ産の牛の成分が使われていますが、海外で使用開始されてから、ワクチンが原因で伝達性海綿状脳症にかかったという報告は現在までありません。</p>
<p>対象は何歳？</p>	<p>接種対象は 2 ヶ月から 5 歳未満です。ヒブによる細菌性髄膜炎の発症は、生後 3 ヶ月から急速に増加し、3 歳を過ぎると減ってきます。そのため生後 2 ヶ月から接種が認められています。ヒブは 5 歳を過ぎると自然に獲得した抗体で細菌性髄膜炎を ほとんど起こさなくなるので、5 歳以上の小児はワクチンを接種する必要はありません。</p>
<p>費用は？</p>	<p>以前は自費接種のため当院では 1 回 8000 円でしたが、生後2ヶ月～5歳未満の年齢を対象に平成23年2月15日から松山市による補助が開始され、対象年齢の方は無料でヒブワクチンが受けられることになりました。(ただ、扱いはインフルエンザワクチンと同じ任意接種になります。)</p>
<p>副反応は？</p>	<p>注射部位の発赤、腫脹などがみられることがあります。発熱は約2%にみられます。この他、まれにショックまたはアレルギー反応が認められることがあります。先頃、ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンを含む同時接種後の死亡例が複数報告されたことをうけて、平成 23 年 3 月 4 日にヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの一時接種の見合わせがありましたが、その後、厚生労働省の専門家会議で、安全性上の懸念はないとされ、平成 23 年 4 月 1 日から接種が再開されております。ただ、ヒブワクチンに限らず、ワクチン接種後にワクチンとの因果関係の有無を問わず 50 万回～100 万回接種に 1 回は死亡を含む重症な症状が出現する可能性があることをご了解下さい。</p>
<p>接種スケジュールは？</p>	<p>年齢によって接種回数が異なります。</p> <p>①生後 2 ヶ月から 7 ヶ月未満……4～8 週間隔で 3 回接種、その後、1 年あけて 1 回追加接種。合計 4 回接種します。</p> <p>②生後 7 ヶ月から 12 ヶ月未満……4～8 週間隔で2回接種、その後、1 年あけて 1 回追加接種。合計3回接種します。</p> <p>③1 歳から 5 歳未満……1 回接種で終了。</p>
<p>予約は必要ですか？</p>	<p>ヒブワクチンの説明文を熟読され、内容をご理解された上で、接種ご希望の方は、当院では予約が必要ですので電話か当院受付でお申し込み下さい。</p>